

1万人の災害ボランティア



平時はドローンでの空撮で、ドローンの飛行技術を磨きながら
いつもと違った映像を楽しむ。

災害時は、被災情報を広範囲に得る手段としてドローン空撮を行いながら
災害に比較的強いSNSに画像や動画をアップロードする。

ドローンがなければ、カメラやスマホのカメラを利用する。

いち早く被災状況を把握ができ、国民が一丸となって、
災害対策に臨むことが出来ます。

ボランティアに参加することで、

日頃より地域の防災や、減災の意識を高めることができます。

国民の皆様が協力し、助け合いながら、災害に向き合っていきましょう。

日本自然災害学会

藤重 裕